様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ３０ 日現在

機関番号：３４４４１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５４６３６５６

研究課題名（和文）多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した多胎サークルと支援システムの検討

研究課題名（英文）Study on multiple circles aiming at social capital formation of multiple child care and support system

研究代表者
落合　世津子（OCHIAI, Setsuko）

藍野大学・医療保健学部・教授

研究者番号：５０３９０１９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：多胎育児サークル参加者のワークショップと、全国の自治体の母子保健と子育て担当者の郵送式調査２つの調査から検討した。結果として、多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素のうち次に示す要素が考えられた。１つは、同年齢の複数の子どもを同時に育児する状況や多胎育児者が育児社会での少数派であることへの理解である。２つ目は、サークル内のメンバー同士および多胎親子と取り巻く人々との良いつながりが起因した互酬性と信頼性の規範である。３つめは、多胎児の親の交流の場の継続と発展と、複数の職種、ボランティア、OGの協働や互酬性のネットワーク、行政職員のソーシャルキャピタルの研修と指針との関与である。

研究成果の概要（英文）：We examined from the two surveys. One workshop-multiple child care circle participants, and one mailing-survey of maternal and child health and child care professionals in municipalities across the country.
Elements to promote social capital formation of multiple child care as a result, the following elements were considered. One should understand that the situation in the same year several children aged children at the same time and multiple child minority in the child care community. The second is that norms of reciprocity and trustworthiness which resulted from well-connected community and members together in a circle and multiple parent-child relationships. Third is that reciprocity networks of collaboration and participation of multiple professionals, volunteer, OG and social capital training and guidance are involved to multiple child care circle for continuation and development.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：多胎育児　ソーシャルキャピタル　多胎サークルの支援システム　サークル内の互助　同年齢の複数の子どもの同時の世話　協働　ソーシャルキャピタル研修と指針

１．研究開始当初の背景

多胎児の育児は困難を極める。大木の調査（2010）によると、「子どもを虐待していると思うことがありますか」の質問に多胎児親は単胎児の母に比較して 2 倍であった。これは、育児の困難さから十分な育児ができていないと言う母の気持ちを示している。

多胎育児は、特に妊娠中から病院や保健福祉行政、地域からのサポートが必要である。地域のサポートの一つに多胎サークルがある。同じ育児の不安や困難を経験を経験した仲間としての共感や信頼感、具体的なアドバイスにより、育児上のリスクを回避し育児を前向きに行うことを助けるソーシャルキャピタルなのである。

「大阪府内における多胎育児サークル・教室の運営の現状と課題」（落合 2010）では、運営主体は保健行政、福祉行政子育てひろば、子育てサロン、当事者が行う自主サークルなど多様で、特に自主サークルの運営は容易でなく常に運営者は悩んでいることが分った。それは、多胎の乳幼児を抱えて日常の育児だけでも疲弊感がある上に、サークル会場の確保や資金、運営方法、周知をすべて行う負担感、リーダーや世話役の引き受け手が少ないなどである。幼い多胎児を抱えて自主サークルを運営し続けることを当事者だけの努力に期待するのは難しいことであることが分った。早急に多胎サークルのエンパワーメントシステムが整わない限り、休会や解散が相次ぐことが予測され、多胎育児を支えるソーシャルキャピタルの崩壊が懸念される。

由ってソーシャルキャピタルたる多胎サークルのエンパワーメントシステムの実態及び継続と発展に必要な要素を明らかにし、多胎育児支援のソーシャルキャピタル形成の推進を図る必要がある。

２．研究の目的

本研究では、ソーシャルキャピタルとしての多胎サークルの継続と発展に必要な要素を明らかにし、その支援システムを検討する。この研究により、どの地域においても多胎児サークルが安定して利用でき、多胎ファミリーが安心して育児を楽しめる環境づくりを目指す。結果として多胎児の母の産後うつの予防、多胎児の子ども虐待等が予防の一助とすることを目的とする。

３．研究の方法

２段階の調査研究をおこなった。先ず 1)の調査としてサークル参加者のワークショップで収集した意見を分析し、それを基にして作成した質問紙による調査結果の分析を行った。

1）ワークショップ

(1)対象者：地域のサークル代表者に研究主旨を説明し了解が得られた１府 3 県の計 5 ヶ所のサークルメンバー33 名。
(2)調査時期：平成 27 年 7 月～10 月
(3)調査方法：参加型アクションリサーチ法（KJ 法を用いたワークショップ）。会場はサークルの活動拠点もしくは近い会場で１サークル毎に託児による母子別室で行った。
(4)調査項目：「困りごと」、「助けになること」の 2 項目
(5)分析方法：参加者が作成した親和図をデーター化したうえ、研究者が 5 か所合同の親和図を再構成して分析した。
(6)倫理的配慮：藍野大学研究倫理審査会で承認後に実施した。

2)質問紙調査

(1) 対象者：全国の人口 3 万人以上の無作為抽出した 500 か所の市区町の母子保健担当者と子育て支援担当者 1000 人。
(2)調査時期：平成 28 年 1 月～3 月。
(3)調査方法：郵送による自記式質問紙法
(4)調査項目：①属性：人口、出生数、出生率、多胎児出生数、回答者職種、②多胎育児支援、方法、交流の場の有無、有の場合の運営主体、開催回数、参加者数と増減傾向、スタッフ、周知方法、開催のきっかけ、開催効果、自主グループの有の場合の支援の有無と内容、交流会がない場合の状況、無くなった、あるいは無い理由、③ソーシャルキャピタルの取り組み：分野、研修や指針の有無、取り組みについての困りごと、市のソーシャルキャピタル状況の調査の有無と結果、多胎サークルのソーシャルキャピタルの形成に関連すると思う事。
(5)分析方法：SPSSver22 を使用した。
(6)倫理的配慮：藍野大学研究倫理審査会で承認後に実施した。

４．研究成果

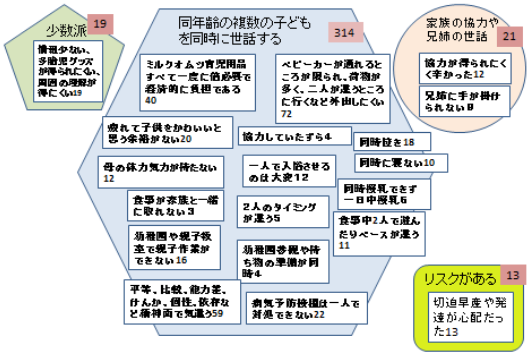
1）ワークショップ結果と考察

「困まりごと」の意見カードは 367 票であった。研究者が再構成した親和図から、①同年齢の複数の子どもの同時の育児のため、経済的負担と人手不足等から子どもを可愛いと思う余裕がない位母が疲れる（314 票）、②妊娠や育児の情報、多胎用グッズが乏しく、ママ友が得にくく、周囲の人々から多胎児育児に理解･共感が得られないと感じる（19 票）、③早産、NICU 入院、発育や発達の心配がある（13 票）、④家族の非協力、気遣い、兄姉への対応（21 票）に大別した。

多胎育児上「困っていること」は、同年齢の複数の子どもを同時に育児する状況が起因する経済的・身体的・精神的負担と、多胎育児者は育児社会での少数派であることが起因する情報の乏しさ・地域の物理的環境の未整備による外出困難・近隣の人々や育児

支援関係者の多胎育児への理解不足感から生じる孤立感が考えられる。

図1 「困りごと」 n=367



「助けになること」の意見カードは 220 票であった。表１は、参加者が意見カードに優先順位を付けたものである。困りごとも多いが、子どもやサークルや家族による、共助互助によって助けられている。近隣や見知らぬ人々も助けとなっている。

表1. 意見カードの優先順位の分類

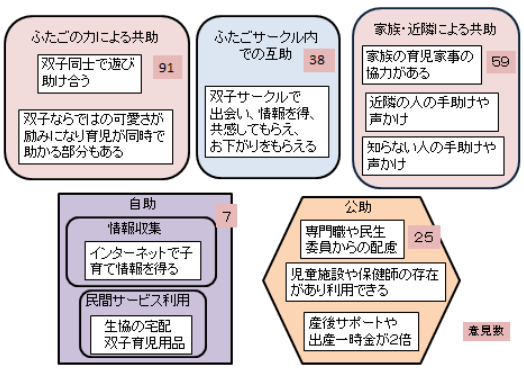
n=99

研究者によるコード化	参加者による「助けになること」の上位ラベルの順位付け	投票数
双子の力による共助	双子同志で遊び、可愛さに癒されるなど子どもたちの助けがある	29
双子サークル内の互助	双子サークル出出会い、共感し励ましあいアドバイスやおさがりをもらえる	29
家族の助け・共助	祖父母、父、兄弟が家事や育児を助けてくれる	22
近隣知らない人の助け・共助	近隣、知らない人からの声掛けや励まし手助けがある	10
行政などの支援・公助	育児専門家の配慮や励ましがある	6
ネットなどによる自助	インターネットの育児Q&A故双子ママのブログの情報を参考にする	3

14

研究者が再構成した親和図（図 2）から「助けになるもの」の主なものは、「多胎サークル内の互助」と「多胎児の力による共助」、「家族近隣の共助」が占めている。

図2「助けになるもの」 n=220



これらのことから、同年齢の複数の子どもを同時に育児する状況と多胎育児者が育児社会での少数派であることへの理解や環境整備、多胎の親子と取り巻く人々の「つながり」から生まれた「お互いさま意識」や「信頼感」が多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素であることが示された。

2)質問紙調査結果と考察

282 票の有効回答（28.2%）を得た。回答者の職種は保健師 207、保育士 36、事務職 29 とその他 10 であった。所属自治体の人口（表 2）は 5 万人～10 万人が 40.4%と 10 万人から 30 万人が 33.3%であった。多胎育児支援の方法では、回答者 258 のうち家庭訪問は 200 (77.5%)育児相談は 206(79.8%)、交流会の開催は 85（32.9%)、サークル活動の支援有は 61 （24.1％）であった。交流の場有が 175(62.1%)で、参加者の増減傾向では増 14.9%、変化なし 38.9%、減少 21.6%であった。交流の場が以前あったがなくなった理由は参加者が少なくなった 54.3%、以前からない理由は双子出生が少ない 41.7%であった。ソーシャルキャピタルに取り組んでいるは 240 の回答があり、うち多胎児子育て分野は 27.5%であった。ソーシャルキャピタルの研修や指針有は 27.7%、ソーシャルキャピタルの取り組み上の困りごと有が 30.5%で、困りごとは取組方法全般等であった。ソーシャルキャピタルに関連すると思うことで最も多かったのが子育てを終えた多胎育児経験者の参加 163（65.5%）であった。多胎サークル等の継続と発展の目安としての交流の場の参加者の増・変化なしの割合は、スタッフでは複数の職種と OG,ボランティアの参加ならびにソーシャルキャピタルの研修や指針の有無では有が高く、有意差があるとは言えないが関与していることが考えられた。

多胎育児のソーシャルキャピタル形成のための多胎サークル等交流の場の継続と発展には、行政のスタッフでは複数の職種やボランティア・OG の参加等の協働や互酬性のネットワークと、ソーシャルキャピタルの研修や指針有が関与しているが、ソーシャルキャピタルの研修指針有率は低く、ソーシャルキャピタルの取組での困りごとは取組全般であることが示された。

表 2　回答者の所属自治体の管轄人口

n=282

人口	度数	%
5万人以下	39	13.8
5万～10万人	114	40.4
10万～30万人	94	33.3
30万人以上	26	9.2
無回答	9	3.2
合計	282	100.0

表 3　年間多胎児出生数　n=282

年間多胎児出生数	回答者数
0～6人	76
7～10人	45
11～20人	42
22～30人	16
32～40人	14
41～50人	5
51～91人	6
108 ～189人	3
無回答	75
合計	282

表 4　多胎育児支援の方法　n=258

方法	度数
家庭訪問	200
育児相談	206
ＴＥＬ相談	188
交流会の開催	85
サークル活動の支援	61
妊婦教室の開催	7
妊婦と経験者の交流会	44
育児サポート	41
健診等の付き添い	18
その他	26
実数	258

表 5　交流の場の参加者の傾向　n=175

増減	度数	パーセント
増加	26	14.9
変化なし	68	38.9
減少	38	21.7
無回答	43	24.6
合計	175	100.1

表 6　交流の場のスタッフと参加者の傾向

n=125

スタッフ	それ以外	増加もしくは変化なし	合計
保健師のみ	12	23	35
保育士のみ	12	24	36
保健師保育士両方	7	26	33
看護師	5	6	11
民生委員	0	3	3
推進委	2	3	5
ボランティア	5	30	35
参加者	6	20	26
子育てOG	5	18	23
計	37	88	125

表 7　ソーシャルキャピタルの研修や指針

n=282

有無	度数	%
あり	78	27.7
なし	120	42.6
不明	70	24.8
無回答	14	5.0
合計	282	100.0

表 8　研修や指針の有無と参加者の増減

n=132

		それ以外	増加もしくは変化なし	
研修や指針	あり	5	32	37
		13.5%	86.5%	100.0%
	なし	19	40	59
		32.2%	67.8%	100.0%
	不明	11	20	31
		35.5%	64.5%	100.0%
	無回答	3	2	5
		60.0%	40.0%	100.0%
	合計	38	94	132
		28.8%	71.2%	100.0%

χ^2検定　$\chi^2=7.601$　p=.055

表 9　ソーシャルキャピタルの取組みでの困りごとの有無　n=282

SCの困りごと	度数	%
あり	86	30.5
なし	122	43.3
無回答	74	26.2
合計	282	100.0

表 10　ソーシャルキャピタルの取り組みでの困りごと由記載　n＝86　複数回答

カテゴリー	サブカテゴリー	意見数
全般・方法	方向性や進め方取り組み方介入	6
	地域差によるアプローチ法	4
	職員のSCの力量共通認識	2
	指針がない	2
	住民への概念意識の浸透	2
	他職種との連携	1
	不明	1
個人情報	個人情報の取り扱いと個人情報による制限	3
グループ育成	団体を把握できていない	1
	育成や継続・モチベーション、新しい組織作りが難しい	6
リーダーとなる人材育成	リーダーのなり手、継続していく人材育成	8
	ボランティア意識の差	1
	高齢化などで後継者不足	7
	子育て支援の場ではネットワークが薄い	1
	実践者の拡大	1
互酬性	行政に依存し、行政主導になりやすい	5
	住民に負担の無い取り組みの提案	1
	行政と住民側の意識や方向性の違いに苦慮する	3
	情報収集不足で連携活用ができない	1
	主体になるのはどこか	1
	住民間で意識に差がある	1
	住民主体をどう育てていくか	4
ネットワーク	高齢化や地域住民の関係希薄化就労で地域活動参加が限られる	4
	自治会がなかったり、地域の組織力の低下などで会員が増えない	3
	つながりが強すぎても義務的になる	1
	ネットワーク、員ら異性、ご修正の規範が薄い	1
	有機的なネットワークを作ることの大変さ	1
人手不足	個別支援に人手が割かれている	4
	人手不足で取り組めない	2
取組中	取組中	1
優先事業や他		

表 11　ソーシャルキャピタルに関連すると思うこと n=249

	SCに関連すること	度数	%
＊自助	母個人意識努力	117	47.0
	サークルリーダー意識努力	83	33.3
	交流会サークルの意識努力	159	63.9
＊公助	保健センター保健師の支援	158	63.5
	子育て支援センター職員の支援	153	61.4
	子育てひろば職員の支援	77	30.9
	社会福祉協議会職員の支援	30	12.0
＊互助	地域のボランティアの参加	141	56.6
	子育てを終えた多胎育児経験者の参加	163	65.5
＊情報	多胎児母へのソーシャルキャピタルに関する情報の提供	100	40.2
	多胎育児支援情報の提供	138	55.4
	地域関係団体への情報提供	42	16.9
	ボランティア団体での情報提供	38	15.3
	住民全体への情報提供	56	22.5
	当事者情報	101	40.6
	その他	6	2.4

＊は研究者が分類

3)結論

多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指す多胎サークルの支援システムに必要な要素のうち次の要素が示された。1 つは、同年齢の複数の子どもを同時に育児する状況や多胎育児者が育児社会での少数派であることへの支援者や地域社会の理解と環境整備である。2 つ目は、サークル内や多胎の親子と取り巻く人々のつながりから生まれた互酬性と信頼性の規範である。3 つ目として、多胎児の親の交流の場の継続と発展には、スタッフとして行政の複数の職種、ボランティア、OG の参加等の協働や互酬性のネットワークが、行政職のソーシャルキャピタルの研修や指針が関与している。地域においての行政職の意識や力量が、多胎児家庭、支援者、地域の協働を仕組みに影響があるのではないかということである。

今後の行政のソーシャルキャピタルの取り組みについての研究の余地が大きいことが示唆された。

研究の限界として、対象がサークル参加者と行政職だけであったこと、行政職の質問紙回収率が 28.2%であったことである。今後、サークル未参加者を含めた当事者の多数の意見、交流の場と地域との関係の事例、行政職間のソーシャルキャピタルの共有等研究を深めていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

1)落合世津子、内藤直子、越智祐子、大高恵美,松川杏奈、橋本千佳、大岸弘子、南日典子、塩崎たまみ、山田律子、立木茂雄「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素―多胎サークルメンバーのワークショップ助けとなるものからー」第 30 回日本双生児研究学会 2016 年 1 月 24 日

2) 落合世津子,内藤直子,大高恵美、松川杏寧、立木茂雄「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素‐多胎サークルメンバーのワークショップ困っていることから―」第 57 回日本社会医学会 2016 年 8 月

3) 落合世津子,内藤直子,大高恵美、松川杏寧、橋本千佳、立木茂雄「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した交流の場と行政支援」第 75 回日本公衆衛生学会総会 2016 年 10 月

６．研究組織

(1)研究代表者

落合　世津子 (Setsuko,OCHIAI)
藍野大学.医療保健学部看護学科.教授
研究者番号：50390191

(2)研究分担者

内藤　直子　(Naoko, NAITOH)
人間環境大学大学院.看護学研究科.教授
研究者番号： 00290429
越智　祐子　(Yuko,OCHI)
名古屋学院大学.経済学部経済学科.講師
研究者番号：40455556
橋本　千佳　(Chika,HASHIMOTO)
藍野大学.医療保健学部看護学科.助手
研究者番号：70737577
大髙　恵美　(Emi,OOTAKA)
日本赤十字秋田看護大学.看護学科.准教授
研究者番号：80289769
松川　杏寧　(Anna,MATSUKAWA)
同志社大学.研究開発推進機構.助教
研究者番号：70727122
大島　加奈子　(Kanako,OSHIMA)
梅花女子大学.看護学部看護学科.助教
研究者番号：50630654

(3)連携研究者

越智　祐子 (Yuko,OCHI)
名古屋学院大学.経済学部経済学科.講師
研究者番号：40455556